INAX UNIVERSAL DESIGN

今から40年前の1967年にINAXはいち早く身体障がい者用便器を開発した。以後、高齢者や障がい者への対応の必要性を常に追求しつづけてきた。1997年には、その姿勢をさらに拡張して、「いつまでも、誰にでもやさしい」をコンセプトに「やさしい暮らし」を発表し商品展開した。2004年には「やさしい暮らし」を「INAXユニバーサルデザイン」に改称、本格的なUDへの取り組みが加速された。
そして2007年、銀座ショールームの全面リニューアルを機に「ユニバーサルデザイン検証スペース」を設置、各種機器の体験検証空間と専門スタッフによるコンサルタント機能を備えたUD対応システムを稼働させた。

INAX:GINZA

トイレ検証スペース

INAX:GINZAの「ユニバーサルデザイン検証スペース」

高橋さんは、INAX社全体のユニバーサルデザインの担当者として東奔西走している。2007年7月にリニューアル・オープンしたINAX:GINZAの4階に設けられた「ユニバーサルデザイン検証スペース」も高橋さんの活躍の舞台のひとつだ。そのコンセプトについて聞いた。

INAX:GINZAの全面リニューアルにあたって、「ユニバーサルデザイン検証スペース」を設置された目的とは。

高橋―今までは、当社の研究所のなかに、モニター評価検証などが行える本格的なシミュレーションルームを設置していましたが、一般のお客さまにふれていただける場所ではありませんでした。一方で、全国のショールームに、小規模ながら住宅水まわりを中心とした手すりや操作ボタンなどの取り付け位置を気軽に確認するというコーナーを設置してきました。

そこで今回、銀座という立地でのリニューアルというタイミングをとらえて、その両方の要素を取り込み、本格的なシミュレーションルームを気軽に使用いただける場所をお客さまにご提供したいと考えました。研究所のなかでしかできないことも、もっとオープンにしてお客さまと一緒に考えていきたいですし、その意見をしっかりと聞いて、研究や商品開発にも反映していきたいと思います。

コンサルタント機能も特徴ですね。

高橋―はい。基本的には、お客さまのご要望があればすぐに対応します。それもひとつの特長になっています。ここはエンドユーザーとしてのお客さまにお使いいただくのはもちろん、設計士さんや工事店さんなどにも幅広くお使いいただきたいです。例えば、設計士さんにご使用いただき納得いただいたうえで、お客さまを連れてお越しいただき、一緒にさまざまな使いやすさの確認をしていただくことも想定しています。一人ひとりのお客さまの状況に応じ、シミュレーションで確認をしながらご提案していきます。

全体の機能をご説明ください。

高橋―まず、商品はすべて現物を使用していますので、リアルな確認ができます。そして、壁面に取り付ける商品は上下左右に動かすことができますので、単体での商品の位置、商品と商品を組み合せたときの状況、それから壁面と商品との距離感なども確かめられます。全体の空間は幅の異なる壁面パネルを組み合わせることによって、最少ですと800㎜角、最大で2800㎜角までを100㎜ピッチで、きちんと閉ざされた空間をつくり上げることができるのが特長です。現物に近い、リアルなシミュレーションができるよう、こだわってつくりました。

さまざまな広さの空間を構成できますので、トイレであれば住宅はもとより、高齢者施設の居室や共用トイレ、公共トイレであれば多目的トイレのほか、広さの異なる一般トイレをさまざまなシチュエーションで、使いやすさ・使いにくさの確認をすることもできます。また、天井にカメラを設置し、普段なかなかご覧いただけない上からの視点で、平面図を見る感覚で空間内の動作を把握できるようにしました。

そのほかにも、洗面カウンターの高さを可変できたり、浴室の床の高さが可変するなど、さまざまな確認ができる機能を盛り込みました。体格に違いがある場合、大きな荷物をもっている場合、お子さんとお母さんが一緒に使う場合、要介護者と介助者が同時に使用する場合や車いすで使用する場合など、身体状況やシチュエーションの違いなどの個別の状況もしっかり把握したうえで、ご提案していきたいと考えています。

検証の様子は天井に設置されたカメラでモニタリングできる

高橋邦長さん
INAXマーケティング部ユニバーサルデザイン担当

状況に応じた商品の設置位置や空間の広さなどを実際に体感して最適配置を決める

プロユーザーからエンドユーザーまで実証的なコンサルタントを可能にしたUD検証スペース

車いす対応洗面カウンターの高さ検証機能

浴室検証スペースでは浴槽に対する床面の高さを変えて検証できる

専門相談員を交えてきめの細かい相談に応じる

浴室検証スペースでは、水栓金具・シャワー・鏡・手すり、そして床の高さなどをトータルに確認できる

トイレ検証スペースと天井カメラのモニター

血の通ったUDへの企業姿勢

矢作 聡さん
福祉環境アドバイザー

このユニバーサルデザイン（UD）検証スペースでは、機器の高さや場所を、自由に変えることができるので、使い勝手を納得のいくまで体感することができます。カタログやHPで見る、頭のなかのイメージだけではなくて、実際に確認できるというのが何よりも魅力ですね。

なかでも、上からの映像が撮れる天井カメラは、ほかではあまりない機能です。これによって、空間でのものの位置関係がよりはっきりしてきます。例えば、ひとくちに車いすといってもサイズや機能の違うたくさんの種類がありますし、一人で動かすのか、介助者がいるのかでも必要なスペースが違います。実際にいろいろな車いすを入れてみて、距離はどうなのか、どこに問題があるのかを、データとして検証することも可能です。

最近では、UD商品の、個々の質はかなり良くなってきています。でも、それらを配置した空間全体としてはどうなのかを考えていかないとだめなんですね。お客さんが「こうしたいんだけどな」というものを、リアルに再現できる場が必要だと思うんです。

使う人に合わせるという発想、それはUDの考え方そのものですが、この検証スペースには、「もっとあなたの生活に近づきたい」という意欲を感じます。「形だけじゃない、もっと血の通ったUDへ」という企業姿勢です。そしてそれは、ユーザーだけでなく、設計者にも役立つ場となっています。私は仕事がらさまざまな企業のお手伝いをさせていただいていますが、INAXさんは、そのあたりの感度がとても高いと思います。先をきちんと見据えていて今後がさらに楽しみな会社だと思います。

やはぎ　あきら●1960年埼玉県生まれ。「住まいづくりねっと」主宰。バリアフリー住宅に関する相談・提案を住まい手、つくり手の双方に行うことをおもな活動とし、さらに、企業・団体・行政などへ高齢者や障がいのある人に対応した商品・サービスの開発・考案など、ソフト重視のサポートをユーザーの立場で展開中

INAXの取り組み

1980年代
高齢者、障害者への
対応を望むお客さまの声が
少しずつ増えてきました

●商品企画・開発、提案業務の
担当者の社内ネットワークが生まれる

身体障害者用便器C-33
1967年から

視覚障害者用タイル
1983年から

車いす対応便器
C-5K
1983年から

1992年● ●公団向けバリアフリーユニットバス発売
●専用カタログ『やさしさへのアプローチ』発行
●有志によるシルバー&ハンディキャップト研究会発足

1995年● ●社内開発基準「高齢者にもやさしい空間の考え方」制定

公団バリアフリーユニット

やさしさへのアプローチ2冊

▼1997年
やさしい暮らし

1997年● ●“いつまでも、誰にでもやさしい”をコンセプトに「やさしい暮らし」発表
●やさしい暮らし対象商品23点の商品発売

棚手すり

高齢者配慮浴槽

2000年● ●やさしい暮らし『プランニングガイド住宅ケア編』発行
●高齢者の暮らしをサポートする

2002年● ●住宅水まわり『プランニングガイド』『商品ガイド』の発行

プランニングガイド

商品ガイド

2004年
INAXユニバーサルデザイン

2004年● ●「やさしい暮らし」を
「INAXユニバーサルデザイン」に改称
●「INAXユニバーサルデザイン指針」策定

社会の動き

1985年● 高齢者のいる世帯割合25.3%
▼世帯構造別にみた65歳以上の方のいる世帯割合

厚生労働省大臣官房統計情報部社会統計課
国民生活基礎調査室「国民生活基礎調査」(1985年)

1989年●「ゴールドプラン」策定(厚生省)※1

1994年● 高齢化率14.0%超→高齢社会へ
●「新ゴールドプラン」策定(厚生省)※2
●「ハートビル法」制定(建設省)※3

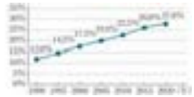
1995年●「長寿社会対応住宅設計指針」策定

1996年●住宅金融公庫「バリアフリー住宅への
基準金利適用及び割増融資」開始
●年金福祉事業団「年金バリアフリー住宅融資」開始

▼65歳以上のうち、約6人に1人が要介護高齢者

厚生労働省「介護保険事業状況報告」(2004年)

▼2000年から20年で高齢化率は1.6倍に



2000年までは総務庁統計局「国勢調査」
2005年以降の統計は、国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2002年1月推計)

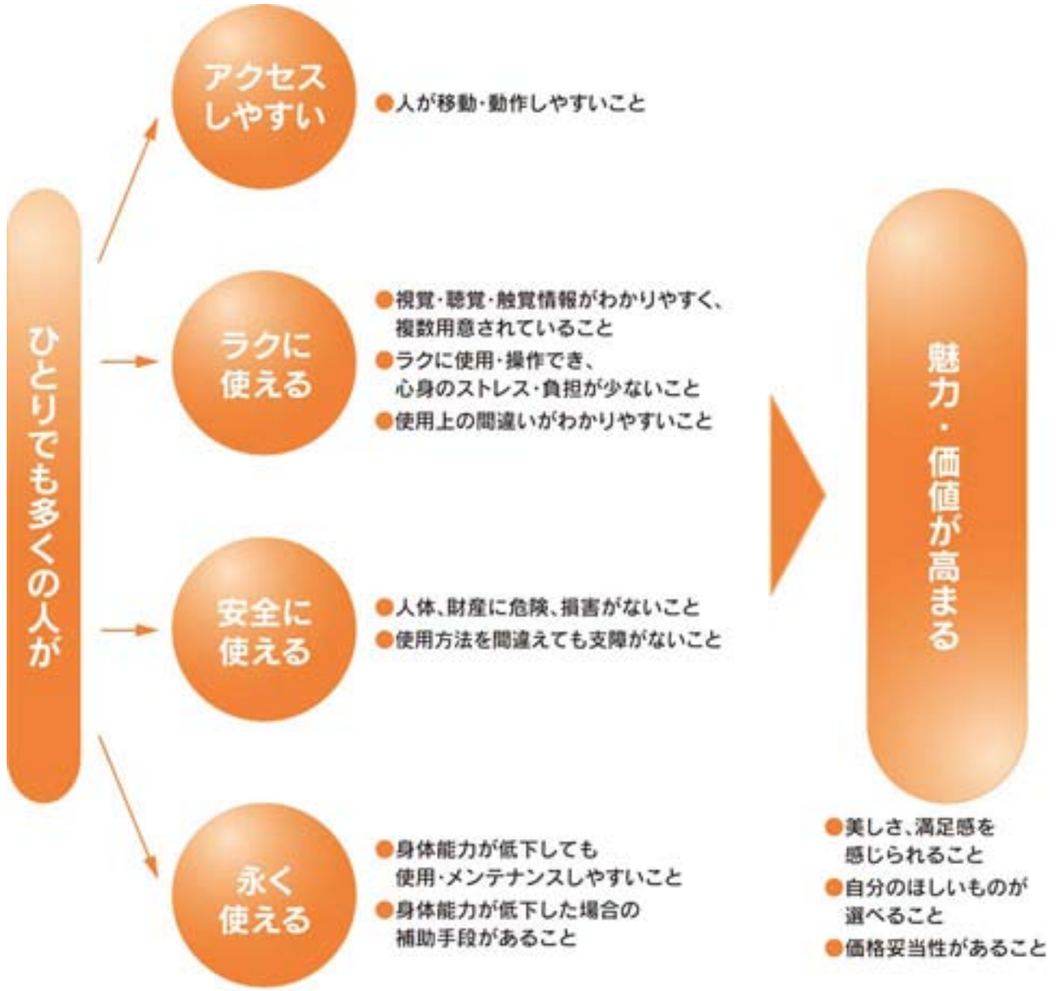
2000年●「介護保険法」施行
●「ゴールドプラン21」策定※4
●「住宅の品質確保に関する法律(品確法)」施行
●「交通バリアフリー法」制定・施行(運輸省)※5

2001年●「高齢者居住法」施行※6
●「ISO/IECガイド71」公布、国内ではJISが採用・準拠※7

2002年●改正ハートビル法策定(2003年施行:国土交通省)

▼障害者の総数は2001年現在、324.5万人で人口の約25%。
5年ごとの調査では増加している。

厚生労働省「平成13年身体障害者実態調査」



INAXユニバーサルデザインの歩み

INAXにとって、ユニバーサルデザインの初めの一歩は、40年近く前の障がい者用便器の開発だったと言えるかも知れません。

お客さまの声、社会の要請に応え、ひとつひとつバリアフリーの器具を完成させていく個別対応の現場を重ねるうちに、より多くの人が使いやすい〝共用品〟づくりの必要性を強く感じていきました。

1997年には、その〝いつまでも、誰にでもやさしい〟商品づくりへの姿勢を「やさしい暮らし」という言葉で発信。

これまでの歩みを財産に、これからも、より多くの人の使いやすさをめざして、ユニバーサルデザインの取り組みを一歩一歩すすめていきます。

※1:高齢者保健福祉推進十カ年戦略
※2:新・高齢者保健福祉推進十カ年戦略
※3:高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律
※4:今後五カ年の高齢者保健福祉施策の方向
※5:高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律
※6:高齢者の居住の安定確保に関する法律
※7:規格作成における高齢者、障害者のニーズへの配慮ガイドライン

INAXは、商品をより多くの人に使っていただけることをめざして、ユニバーサルデザインに取り組んでいます。

より多くの人が「使いやすい」商品づくりは、ものづくりの先人たちから引き継ぐ永遠のテーマ。

年をとった私、怪我をした私、子どものいる私、障がいを負った私、小さい子どもの私……。

たくさんの私たちはまた、体格の違い、性別の違い、人種の違い、得手不得手の差など、個別の違いをもっています。

多くの人の「使いやすさ」を考える指標として、INAXは「INAXユニバーサルデザイン指針」を設定。開発の基本原則としています。

INAX
ユニバーサルデザイン
暮らすよろこびを、ひとりひとりに。

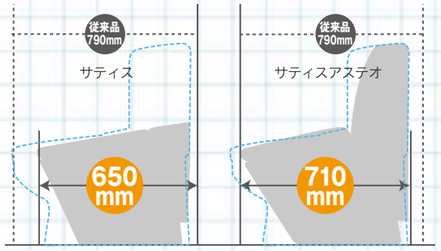
トイレのUD

標準的なトイレの照明

夜中でも安心な寝室隣接のトイレ

夜間のトイレをサポートする「ほのかライト」

従従来型のタンク式(奥行き790㎜)に対して、サティスは650㎜、サティスアステオは710㎜とコンパクト化した



サティスカラーズが個性的なトイレ空間を演出

コンパクトなトイレ空間にゆとりとやさしさを盛り込む

自分で用が足せること。夜中でも安心してトイレが使えること。介助の人も一緒に入れるスペースがあること。トイレにはいろんなやさしさが求められている。

ダイレクトバルブ機構という技術で、タンクレス・トイレを実現した「SATIS（サティス）」は、狭い空間の有効利用に大きな可能性を開いた。コンパクトな機器自体に、便座やフタの自動開閉、便器の自動洗浄機能、室内暖房機能、そして夜間に便器内とそのまわりをほのかに照らす「ほのかライト」などの機能を満載。これによって、トイレ内の動作スペースや手洗器の設置などにもゆとりを生み出した。

立ち座りの動作を助ける便座昇降装置付きトイレ

床上排水型トイレ

浴室のUD

ワンタッチで操作ができる「プッシュ水栓」

身体はもちろん、気持ちまで配慮したお風呂を考える

一日の疲れを癒し、家族との大切なコミュニケーションの場でもあるお風呂。出入りや動作の安全はもちろんだが、気持ちのゆとりや安心にこそ配慮したい。使いやすさとわかりやすさを追求したプッシュ水栓や、自然にサポートしてくれる握りバー、浴槽のまたぎこみ動作への配慮、暖かく滑りにくいサーモフロアなど、細かな心づかいが心身ともにのリラックスをサポートしてくれる。

アームとノズルの噴出角度を体格に合わせて自在に調節できる

10ヶ所のノズルから霧状にお湯を噴出して広範囲を温める

座ったままでも全身をまんべんなく温める

シャワー・ド・バス

湯船につかるのはあきらめています」という高齢の女性の一言が、全身シャワー「シャワー・ド・バス」開発のきっかけだったという。入浴介助に男性スタッフが来ることもあるからだ。そこで、湯船に入らなくても、お風呂に入ったのと同じ気持ちよさを味わえたら、という発想から多くのモニター研究や機能開発をかさねて「シャワー・ド・バス」は完成した。

洗面化粧室のUD

引き出し型収納踏み台は子どもの身長にも対応する

薄型カウンターで車いす使用にも対応

INAX:GINZAの洗面展示

一日の始まりに、身だしなみと「気持ち」をととのえる時間

子どもからお年寄りまで、洗面室の使い勝手は時代とともに変化する。立ったり座ったり、必要な小物の種類も変わるから、いすや収納だけでなく、洗面台の高さも変わって欲しい。ライフスタイルの変化に細かく対応してくれる洗面室があったら、それこそがUD洗面室だ。単に使いやすく便利な機器ではなく、人生のパートナーという発想がUDの基本なのだ。

INAX:GINZAには伝統工芸やアーティスティックな洗面ボールも展示

INAX:GINZAのキッチン展示

キッチンのUD

家族のきずなを快適に高め合えるナチュラルな空間

キッチンは家族の大切な生命維持装置だ。そこには食事のための機能性と同時に安全安心な衛生管理が求められる。清潔さは、健康の基本なのだ。

そして、暮らしの中心としてのキッチンにはコミュニケーションという空間の演出機能も求められる。それは快適かつ機能的で、合理的なやさしいプラントでなければならない。それらをトータルに配慮するのがUDキッチンだ。

電動昇降ウォール収納を備えたキッチン

濡れた手でふれることなく、手をかざすだけで湯水のオン・オフができるタッチレス水栓

INAX:GINZA

エントランス・ホール

INAXギンザショールームは、2007年7月に「INAX:GINZA」としてリニューアル・オープンした。全館の内装にタイルを多用。エントランス・ホールはタイルに包み込まれるような有機的な空間だ。

受付カウンター

パブリック多目的トイレのUD

パブリックな空間にこそ見えない心のやさしさを

多目的トイレのプランニングにINAXが取り組み始めたのは1990年だった。それまではパブリック多目的トイレは「障がい者用」「車いす用」と呼ばれており、より多くの人のためというUD的な発想にはいたっていなかった。つまり、特別なむだに広い空間、という認識だったのだ。そこでINAXは、より多くの人が使いやすいように、機器ひとつひとつを見直すことから再スタートした。子どもも大人も車いすの人も使いやすい機器の配置、鏡の位置を実証的に見直した。

人を包み込む空間をつくる

前田紀貞さん
建築家

まず、エントランスが衝撃的ですね。

前田―あれは3次曲面になっていますから、タイルシートを普通に貼れるところからまず貼っていき、残りを三角形に切っていく。全部手貼りです。どこをどう貼った方がいいのかは現場でやりながらという感じです。図面も一応描いて模型もつくりましたが、模型で見た感じと、実際になかに入って見える、あるいは体が感じる感触とは違うので、それを実際に目で確かめながら、まさに現場で実物大模型をつくるという感じですね。

内装はタイルが基調ですね。

前田―ＩＮＡＸらしさを考えると一番いいのはタイル、ということで、シンプルに徹底的に全部タイルでいこうと。徹するということがすごく大事だと思う。素材の徹底が結果的には、デザインも徹底することになったと思います。

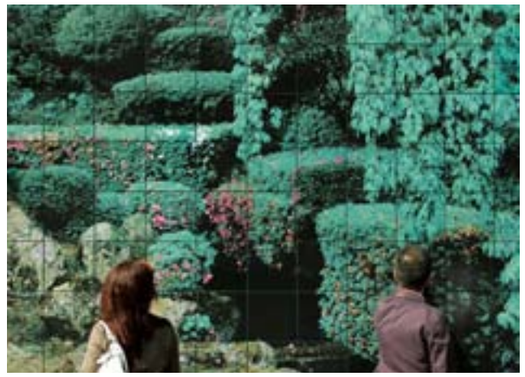
住宅建築を多数手がけられていますが、建築と内装の関係とは。

前田―結局、あまり変わらないのかもしれません。内装というのは、四角い躯体、箱ができていて、飾るだけだというふうにも思いがちですが、やはり本気でやると、なかにつくり出す皮膜みたいなものでも空間は十分つくれます。

　ここに入ってくるのは、ＩＮＡＸさんのモノたちとそれを体験するお客さんたちです。それらを包み込むベースのようなものをつくろうと考えました。ある種の建築のテーマのようなものですね。例えば、３階の大きな曲線の空間。あれはまさに風呂敷みたいなものなのです。風呂敷の上にこれをしっかりと並べていったら、商品がきれいに見えますよと。つまり、余計なデザインをしないでベースだけをつくることに徹したということです。そこにひとつ場をつくる。空間をつくる。そこに人とモノが一緒になっている。ですから、建築的というか「人が入れるインテリア」ですよね。

　とかくインテリアというと、枝葉の部分にどうしても目がいきかねません。きれいな花のところばかりに。やはり根や幹がしっかりしているものに、結果、花が咲く。建築とは根や幹の部分に栄養を与えるものなのかとも思います。ですから、人がしっかり入って何かを感じたりとか、ただ素材とか色だけに目を奪われるのではないものをやってみたいと思いました。

まえだ　のりさだ●1960年東京生まれ。京都大学工学部建築学科卒業後、大成建設設計本部入社。超高層ビル、事務所ビル、ホテル、劇場などの設計に携わり、1990年に前田紀貞アトリエを設立。数多くの住宅設計を手掛けるかたわら、日本大学理工学部、法政大学工学部の非常勤講師も務め後進の指導にあたる。
INAX:GINZAのリニューアルでは、1階から3階までを実施設計まで、その他の全体については監修の立場でかかわられた



外壁に貼られた写真タイル「雪舟の庭」

銀座にあらわれた空間体験ミュージアム

松川 晃さん
INAX:GINZA館長

２００７年７月、東京銀座のＩＮＡＸショールームが「ＩＮＡＸ：ＧＩＮＺＡ」として全館リニューアル・オープンした。今回のリニューアルに込められたねらいと今後の展開について、ショールームプロモート室長でもあり同館の館長を務める松川晃さんに聞いた。

リニューアルのおもなコンセプトは。

松川―ＩＮＡＸのショールームは全国に60カ所、首都圏には11カ所ありますが、それらは主としてエンドユーザーさんを対象としたものです。そこで、プロの方ときっちりコラボレートできる場をつくろうということで、今回は企画の段階からおもな対象をプロユーザーさんにしました。もちろん、どんなユーザーさんにも来て楽しんでいただき、上質な空間に仕上げていただく。そのお手伝いができる場がＩＮＡＸ：ＧＩＮＺＡです。

内装はタイルが中心ですね。

松川―今回、前田紀貞先生に設計をお願いして、ひとつひとつのディテールにこだわり、徹底的にタイルにこだわりました。従来は天井にタイルを貼るのは、どちらかというと薦めてはいませんでしたが、今回は空間全体をデザインするために、ネットクロスユニット（ＮＣＵ）という工法を新しく開発しました。これによって天井から壁、床まで同じタイルで全面を構成しています。

体験型のミュージアムのようです。

松川―素材は、有機や無機、金属、木など多様ですので、なるべく手にもって実感していただきたい。設計の方にもエンドユーザーさんにも一緒にその触感をご理解いただきたいと思います。

　もうひとつの試みは、建築家の方とエンドユーザーの方を結ぶ、俗に言うお見合いです。住まいセミナーなどで交流していただいていますが、これは建築家とエンドユーザーの双方にとってプラスになると思います。先生という名前が付くと敷居が高く見られますが、実際は苦労話や裏話も交えて、和気あいあいとした雰囲気で楽しい会になっています。

外装の写真タイルが話題ですね。

松川―写真は一瞬の世界です。一瞬の世界と１００年もつタイルを融合させた発想が素晴らしいとお褒めをいただいています。銀座に少しでも緑の安らぎをということで、久保田博二氏撮影の、雪舟作と言われる島根県益田市にある医光寺の庭の写真をお借りして制作しました。

当館への館長さんの想いとは。

松川―銀座は日本の顔で、素晴らしいお客さまがお見えになります。そういう方たちにできるだけ上質な空間を提供していきたい。それを私ども全員がキーワードにしています。かといってお高くとまっていてはいけないので、応対はあくまで親切丁寧に、そして最終的にはお客さまにより上質な空間提供を志す。そういう想いでやらせていただいております。